

不登校生徒にとってのフリースクールの意義

－ 卒業生へのインタビューによる検討 －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
藤村 あきほ

不登校児童生徒の予後について、対人関係を築くことができず自宅に引きこもる「社会的ひきこもり」が起こりうることなどが問題とされており、不登校の長期化を防ぐ支援や人との関わりが失われないような支援を考えることが必要であるとされている。そこで本研究では、学校に通えない子どもの成長を学校以外の場において促すことを目的としている S フリースクールを対象として、そこでの人間関係や面談、課外活動が生徒にとってどのような意味を持っていたのかを明らかにすることを目的として、卒業生に対してインタビューを行った。

その結果、S フリースクールの先生に対する信頼感は比較的早い段階で得られたこと、その信頼感は新たな環境や生徒の抱える課題に挑戦することなど辛い活動を乗り越える上で支えとなっていたこと、フリースクールに馴染むためには長い時間を要すること、同世代の人との関係形成は困難であること、S フリースクールは単に癒しの場であっただけではなく訓練する場所としての厳しい側面も持っていることが明らかになった。このことから、S フリースクールは大人との信頼関係を支えにしながら集団生活に耐えうる力が身につけられる場所であり、卒業後にも人と関わることのできる力を養い社会的ひきこもりになることを防ぐ役割を担っていたと考えられる。生徒の心理状態や環境に合わせて課題に挑戦させるような関わりも重要な役割があることが示唆された。